

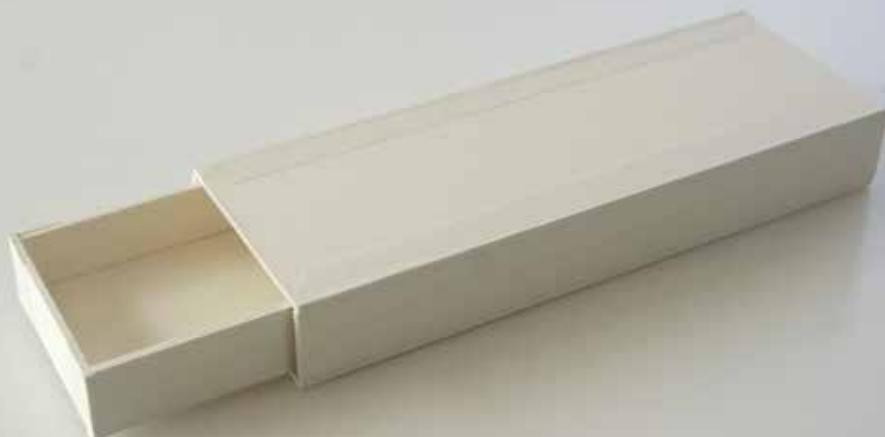


*Le Cartonnage*

別冊：カルトナーージュ製図Ⅰ

布箱のレシピ

TASSEL & CARTONNAGE



Oblong-shaped  
延長方形

延長方形は、細く長い箱として用いるもので、長方形（レクタングル）とは異なり、少なくとも長辺と短辺の差を、短辺1：長辺2よりも大きくとって、細長く引き延ばした四角形です。四つの辺を直角で囲む正四角形の作図と基本を同じにしますが、延長した辺が長い場合には、三角定規を組み合わせて、直線を平行に作図します。

### Sleeve case

## スリーブ ケース（延長方形）

### 身箱を引き出すシンプルな構造

キャラメル箱等の小型紙器に用いられる引き出し式の箱を「スリーブ箱」といいます。中身を容易に取り出すために蓋箱（スリーブ）から身箱（トレー）を引き出して使うのです。基本とする典型はスクエア形やレクタングル形、オブロング形を用います。カルトナージュでは、筒状にした箱の中を身箱がスライドするドロワーチェストの引き出し作りに応用することができます。



スリーブとトレーを組み合わせた引き出し構造

図1：トレーの展開図

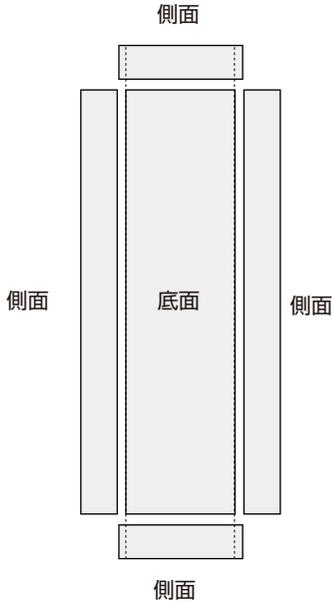


図2：スリーブの展開図

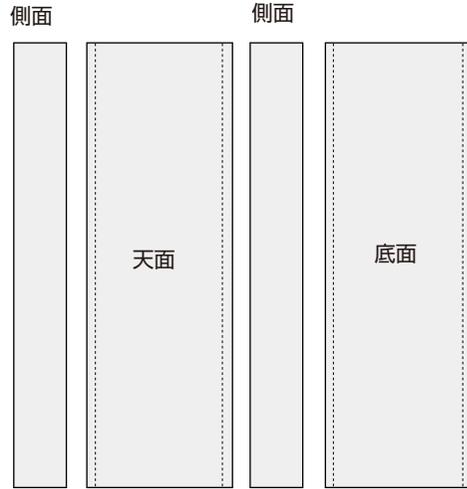
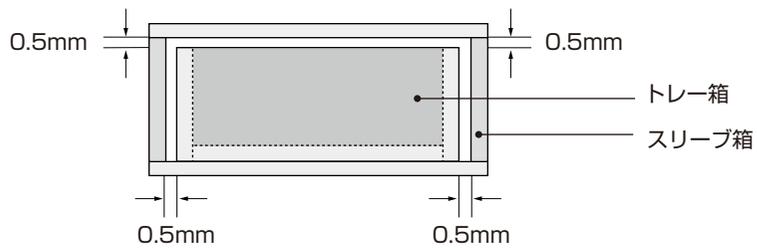


図3：スリーブ式の構造断面図



**POINT**

スリーブ箱をスライドさせるための寸法を見積もる設計がポイントです。本作はカルトンだけの組み合わせとして、スリーブ内でスライドする隙間寸法を0.5mmとしています。実際はクラフトテープの厚み、布地の外装・内装の厚み等を考慮したみなし寸法をとります。

**《仕様》**

- ・組みつけ=平受け接ぎ
- ・台紙の厚み=1.5mm (作例参考)
- ・スリーブの遊び寸法=0.5mm

**01 | スリーブ箱にトレー箱がスライドする遊びをとる**

基礎とする図形は全て延長方形で作図する。スリーブ箱は、二枚の天・底の面板と二枚の側面を筒状に組み立てて両端を抜き通した構造にする。天を化粧面にするため、側面の上下に天板・底板を組み付ける。展開図は面板を並列した作図で紙取りする。トレー箱はスリーブ箱の内側をベタ底でスライドするため、内径の左右と上にスライドさせる遊び（隙間）を0.5mm開けた設計をする。



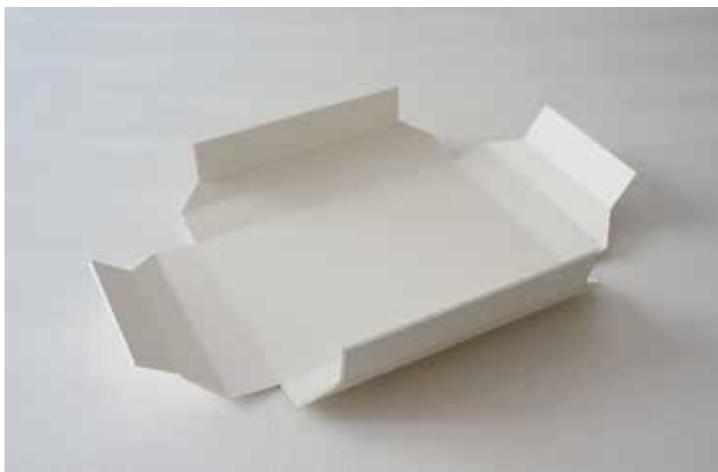
作例) タッセルケース

## Frame box

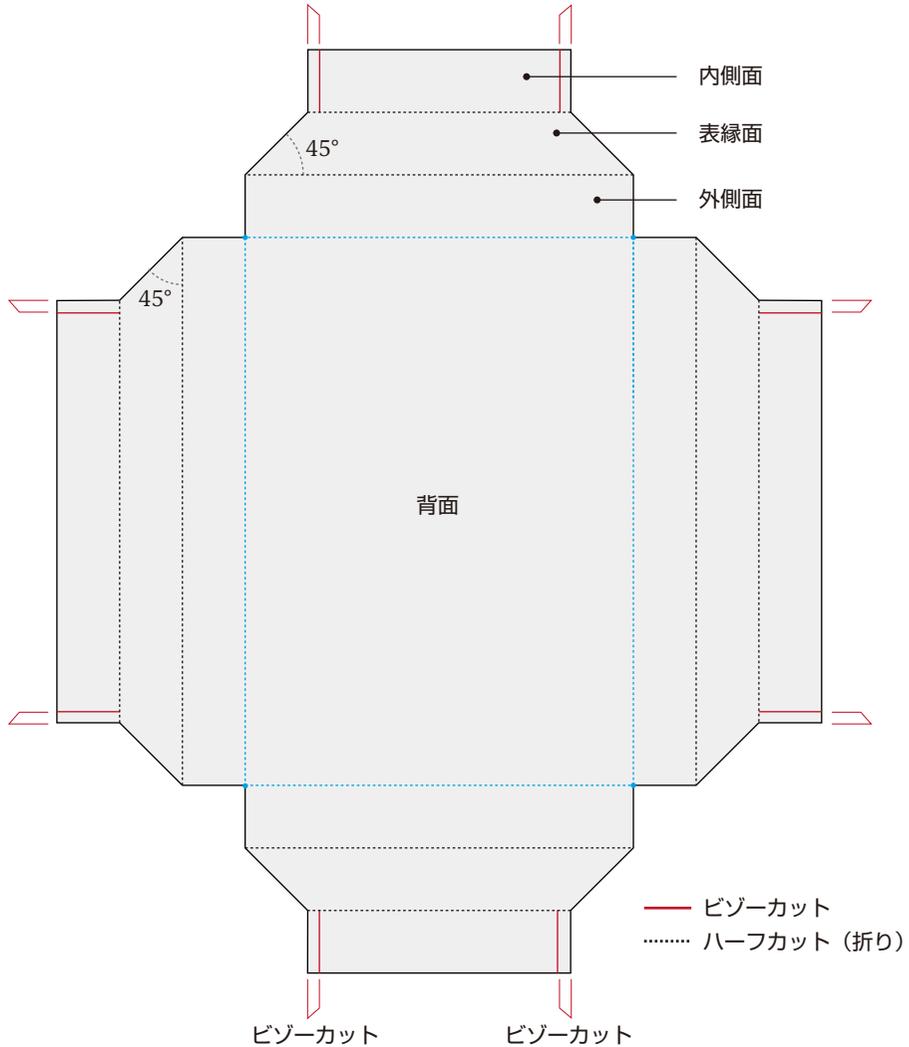
### フレームボックス (額縁形)

#### ダブルウォール(二重側面)の額縁

背面から写真や絵葉書を入れる仕組みではなく、額縁の中に立体物を飾るよう深さをもったダブルウォールフレーム(二重側面縁)です。カルトナーージュで額縁を組み立てる折り組み上げ式の手法です。白銀比矩形を背面にして側面を四方から内巻きに折り込んで廻り縁に組み立てる形です。額装の角を留接ぎで組み合わせるためにフレームワークに用いるビゾーカットをする部分があります。



折り組み上げ式の展開構造



#### 関連図法

「白銀比矩形の図法」

#### POINT

展開図は表面（表向き）で製図します。

平台紙から折って立体に組み立てるため、台紙の表裏の使い方が肝心です。作図して折り筋（ハーフカット）が入る面を表にして組み上げます。

#### 《仕様》

- ・内巻き折り組み上げ
- ・台紙の厚み= 1.5mm (作例参考)

## 01 | 額縁成形のポイント

白銀比矩形を背面にして、側面を面付けしていく展開製図。破線にハーフカット（半切り）を入れて、内側に巻き込むよう折り起こして組みたてる。折り起こすと表縁面が隅合わせとなるため、三角定規を用いて斜め45°の直線で作図する。巻き込んだ内側面が内側（内装）で倒立すると、台紙の厚みが四隅で緩衝するため、内側面を立ち上げる小口をビゾー（斜め45度に切り落とす）にカットする。



応用例) 円環を組み合わせた『くぐり組み』

## Circle ring

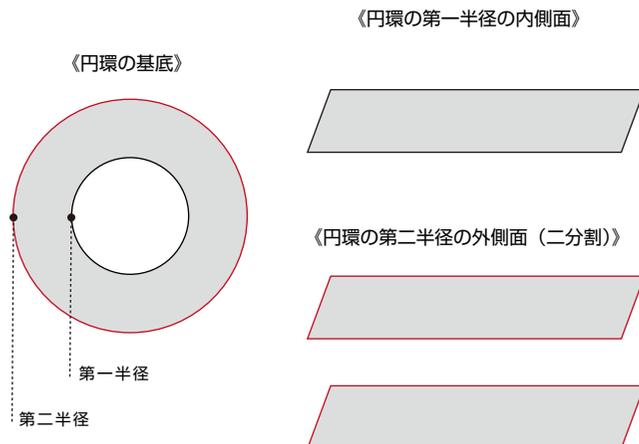
# サークルリング

(円環形)

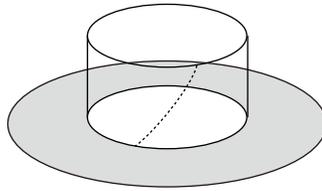
### ドーナツ型の輪形

円環は丸くつながった輪の図形です。円形の中央に穴があいたサークル形を基底に、コンパスを用いて第一半径と第二半径の同心円を作図します。第一半径と第二半径との差が円環全体のバランスに関わります。円環形は作図法よりも組みつけ方の難しいモチーフです。円環の作図を元に紙取りと組みつけ方について説明します。

【図1】円環の展開図（紙取り）

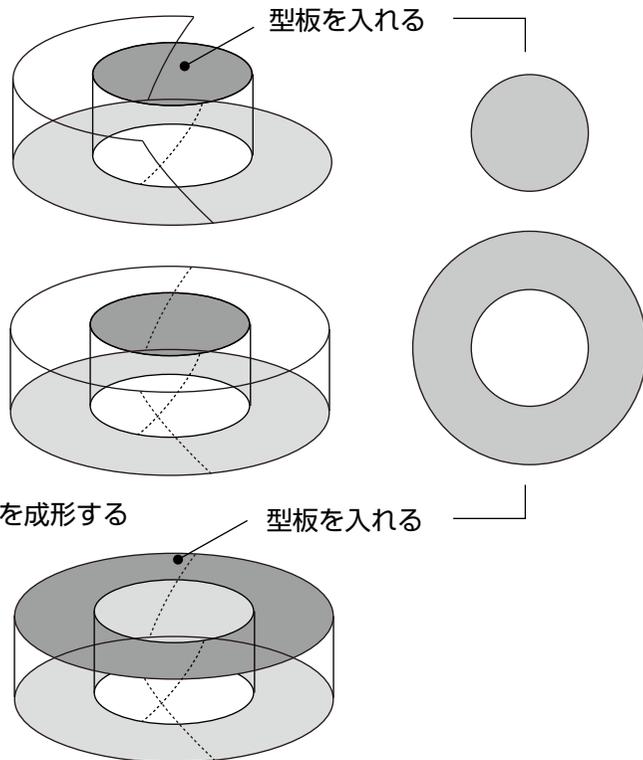


## ①第一半径の内側を巻く



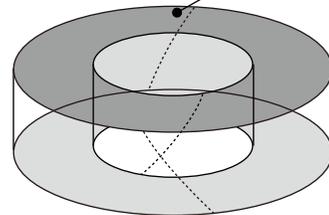
## ②第二半径の外側を巻く（二分割）

【図2】



## ③円環を成形する

型板を入れる



## 01 | 円環成形のポイント

## POINT

 成形に用いる型板の製図が必要です

円環は第一半径（内側）と第二半径（外側）の順に側面を分けて組み付けます。側面台紙のラウンドは表面から裏面へ曲げる用い方をするために、内側と外側では台紙裏面の用い方が逆になることに注意します。また、外側の側面は二面に分割して巻いていますが、円環の大きさに応じて一面で巻くこともできます。

図1) 円環基底の第一半径の円周長と第二半径の円周長を求め、側面図を作図し紙取りする。（実際の側面長は基底に合わせて調整できる余分を含めること）また、成形のための型板を作図しておくこと。

図2) 円環成形の基底は、第一半径から側面を組み付け、第一半径側面の組み付け後に型板を入れたまま、第二半径側面を組み付ける。最後に第二半径側面にも型板を入れて円環全ての紙巻成形を行う。

---

*Le Cartonnage* SHAPE OF CARTONNAGE 別冊：カルトナージュ製図I  
布箱のレシピ

2023年11月18日 第1版

著者 濱本修徳

発行 Tassel&Cartonnage / PASSAMANO.JP

<https://www.passamano.jp>

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、著者、発行者の許諾を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。

TASSEL & CARTONNAGE

Copyright © 2023 Passamano All rights reserved.

Published by PASSAMANO.JP

Text, Illustration, Photography, Design, Original Japanese edited by Tassel N

First edition 2023.11.18